



大和田 加代子
(碧 い 風)

「五の市」の再開見通しは 道の駅エリアで施設整備

質問 震災前、高田町大町では五のつく日に市が立ち大勢の市民でにぎわっていた。まちなかのにぎわい創出という点からも再開が期待されるが、見通しはどうか。

答弁 「五の市」の本格再開は必要と考えているが、市の実施には、出店者全体を調整する運営主体が必要である。また、場所については商工会、まちなか会、漁協、道の

駅関係者との懇談を重ねた結果、道の駅エリアで、屋根のある施設整備を検討中である。

質問 「市」をまちなかのにぎわいの起爆剤にしたいという思いの方もいる。道の駅エリアでの開催というのは五の市の方々の意向とは違うと感じるがどうか。

答弁 まちなかでの開催の可能性についても検討した。「五の市」再開のためには運

営組織などがとても大事になる。一方、長部地区で開催されていた土曜市などの小規模漁業者への支援、活性化も必要と思っている。道の駅方面であればそれぞれの方にメリットがあり、現在、国と協議している。

津波復興祈念公園の防災体制

質問 11月10日に行われた津波避難訓練から浮かび上がった課題は。

答弁 避難路となっている歩道上に、道路標識の支柱があり、車いすが通行できなかった。直ちに道路管理者に連絡し、改善してもらった。

質問 徒歩避難が原則であるが、このルートは距離が長い。東日本大震災時の平均歩行速度及び高齢者等歩行困難者の歩行速度を基に計算すると、避難目標地点の気仙大橋西交差点まで、それぞれ32分、39分かかる。津波到達まで、30分から40分かかると考えると、安全とは言えない。自動車による避難をせざるを得ない場合における、道路利用の



市神様の台座（高田町）

ルールを定めることについて

答弁 本市地域防災計画では特別な事由がある場合などに車での避難を一部認めている。自動車避難に関する知見を有した自治体などからの情報入手等に努めていきたい。



佐々木 一義
(創 生 会)

今後の産業振興策は 一次産業を土台に雇用創出へ

質問 今後の産業の推移はどうか。

答弁 震災復興工事終了に伴う建設業の減少が予想され

るが、外国人労働者を雇用し、一定数の雇用を確保している。

質問 本市の産業振興にお

ける外国人雇用は。

答弁 少子高齢化が進む本市において外国人雇用による労働力確保が重要と考えている。

質問 小回川の対策と周辺の水害対策はどうか。

答弁 今後も雨水排水対策は、緊急度を勘案しながら、事業化に向けて取り組んでいくが、整備には一定の時間を要することから、地域の皆様のご協力をいただき、適切な維持管理に努める。



暴風雨におびえる住民（高田町）

る。公共事業の確保に努め、一次産業を土台に、陸上養殖やピーカンナツ等の雇用の創出が期待される産業の育成に力を入れていく。

質問 市内産業の求人状況はどうか。

答弁 水産加工業では、応募者数が求人数を下回っている。

ける外国人雇用は。

答弁 少子高齢化が進む本市において外国人雇用による労働力確保が重要と考えている。

共生社会を目指している本市は、市内に住んでいる外国人労働者と地域住民が互いに理解し、外国人労働者を受

質問 巨大台風などから「いのちを守る」ための対応策はどうか。

答弁 市民の命を守るため、避難勧告等を適切に発令し、迅速な情報伝達に努める。市民の皆様には「自分の命は自分で守る」意識を醸成していただき、早めの避難を心掛

質問 災害時における災害弱者サポート対策はどうか。

答弁 避難行動要支援者名簿を策定し、地域内の自主防災組織や消防団に配布し協力を求めている。

質問 要支援者の避難先は。

答弁 要支援者は、いったん市指定の一般の避難所へ避難していただく。市の保健師が避難所を巡回した際に、一般の避難所で避難生活が続けるのが難しいと判断された場合、市から福祉避難所へ連絡し、受け入れ可能となった場合に移動する。



伊藤 勇一
(碧 い 風)

水稲振興の現状と課題は 担い手への農地集積を図る

質問 水稲振興の現状と今後の見通しはどうか。

答弁 本年度産米の作付面積は約301ヘクタール。ひとめぼれが約218ヘクタール、銀河のしずくが約8ヘクタール。ほ場整備の推進、生産基盤の整備を図っていく。また、農地中間管理制度を活用し、担い手への農地集積を図りながら、安定的に生産できる環境づくりに努める。

質問 たかたのゆめの作付けと流通状況はどうか。

答弁 令和元年、市内50戸の農家が約60ヘクタールを作付け、過去最大の面積となった。収量は約250ト。全農へ120トを契約出荷し、残りは、ふるさと納税の返礼品、道の駅高田松原、市内スーパー、飲食店で提供している。

質問 水稲の生産基盤体制の現状と展望はどうか。

答弁 震災で被災した農家が共同組織を立ち上げ、農業生産対策交付金により機械導

入。平成26年にライスセンターを整備、大船渡市農協が指定管理者になっている。ストックヤードや保管庫不足の対応策について協議を進める。

林業行政は

質問 気仙杉の現状と今後の見通しは。

答弁 市場では、地域ブランド材の一つとして取り扱いがあるが、銘木ブランドに比べると、さらなる品質向上や

消防組織の現状は

質問 消防団員数の現状と今後の見通しはどうか。

答弁 本年4月時点の消防団員数は636人。消防団員のなり手不足が深刻である。加入への呼び掛けとリーフ



米の収穫

質問 消防職員の勤務体制はどうか。

答弁 現場対応の当番職員は、28人で3班編成。1当番24時間の交代勤務。昨年の救急出動は932件、年々増加傾向にあり、市民の負託に応えられるよう対応する。